

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

夢と希望のある神奈川を



<http://www.araikinuyo.jp>

コロナ対策盛り込まれた484億余円 県一般会計6月補正予算案を審議

6月15日開会の神奈川県議会本年度第2回定例会本会議に、黒岩祐治知事から一般会計6月補正予算案が提案され、審議が行われています。コロナウイルス感染症対策への施策が盛り込まれた484億3600万円を内容とするもので、財源として国からの交付金に県の財政調整基金から9億5700万円を繰り入れて充てています。内容は事業者への支援に116億1864万円、医療提供体制の維持・生活支援等に361億3607万円となっており、事業者への支援では酒類販売事業者等への支援給付金、中小企業者等への支援給付金の制度を新たに始める施策が盛り込まれるなどしています。補正予算案について県議会では7月13日の本会議まで、2つに分けて（事業者支援分とそれ以外）採決します。

補正予算案には神奈川県なりに独自に計画した新規の事業が幾つか盛り込まれています。事業者支援では従来の国からの支援にプラスして酒類販売事業者等には支援給付金の加算と支援対象の拡大、酒類販売業者等を除く中小企業者等には加算が行われます。県では県内の酒類販売業者等5000店のうち1700店程度、中小企業20万社のうち5万社程度が利用するのではないかと見込んでいます。さらに信用保証事業費補助でも信用保証料に対する補助を拡充するとしています。これらの予算額は計81億4920万円となっています。

また多くの観光地や宿泊施設を抱える神奈川ですが、新たに宿泊施設感染症対策等事業費補助制度が設けられています。宿泊事業者が機械換気設備の導入などに要する経費に補助するもので26億8586万円を計上しています。許可を得ている県内の宿泊施設は1700に上ります。乗り合いバスやタクシーの事業者に対する地域公共交通事業者感染症対策支援事業も新規で、5億9582万円を計上しています。これらの消毒液の購入費などの半分程度を補助するものです。県では対象のバスは4000台以上、タクシーは2万台以上になるとしています。

生活支援では生活困窮者自立支援金の交付事業が新たに盛り込まれました（1億1970万円）。生活福祉資金の貸付額が上限に達するなどして新たに貸付を受けられず生活に困窮する人への支援（支給は3か月まで）で単身世帯で月6万円、2人世帯で月8万円、3人以上世帯で月10万円となっています。孤独・孤立で不安を抱える女性への支援としてNPO等の知見を活用した相談や訪問の支援、生理用品の配布等を行う施策も加わっています。



コレが言いたい!

6月21日以降も県内6市（横浜・川崎・相模原・厚木・座間・小田原市）では引き続きまん延防止等重点措置が適用されました。県内の飲食店や関連する事業者などは、長引く自粛に、疲弊しています。新型コロナウイルス感染症と経済活動を両立する仕組みを更に進める事はもとより、待たなしの状況にある事業者などに早急の支援が必要な事から、6月補正で提案された116億円余の事業者支援については、7月13日の採決を待たず、先行して6月30日に採決する事となりました。



7月23日から開会する「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」では、県内でもセーリング、野球・ソフトボール、サッカー、自転車競技の4競技が開催されます。県では、選手・大会関係者及び県民の皆さんにとって安心安全な大会となるよう「神奈川県新型コロナウイルス感染症対策に関する東京2020大会協議会」を設置し対策を進めています。

磯子あれ?これ?

熊野神社 (磯子区中原)

熊野神社は、源頼朝ゆかりのお社です。建久3(1192)年源頼朝の命を受けた鎌倉泉蔵院の高僧知覚法印が紀州熊野三山に三籠し、御分霊を船に乗せて海上に流したところ中原の浜辺に流れ着いたので、熊野の神様を勧請して山上に熊野権現社、山裾に桐谷寺(とうこくじ)を創建しました。

その後、泉蔵院は兵火を逃れ鎌倉から当地に移転し、桐谷寺はその名を大霊山泉蔵院に改めました。泉蔵院は、熊野詣が盛んになるのに合わせて明治初年まで神仏習合の修験道場として栄えましたが、神仏分離令により廃寺となり、熊野権現社は熊野神社に名を改め中原の氏神様として現在に至っています。

熊野の神様が海から来られたので、かつては神輿の海上渡御が行われていましたが、根岸湾の埋め立て(昭和34~46年)後は神輿と山車が町内を練り歩いています。

境内には梅の名所を詠み刻んだとされる芭蕉の句の石碑があります。

参考:宮司の話

活動報告

6月18日(金)に自民党県議団を代表して、下記の内容で代表質問を行いました。尚、質問の様子は7月5日(月)18時30分からTVKで放送されます。

- アフターコロナを見据えた今後の神奈川の姿について
 - アフターコロナを見据えた「かながわグランドデザイン」の推進について
 - あらゆる危機事象に対応できる県職員の適正な配置と人材の確保について
 - 脱炭素社会の実現に向けた取組の推進について
 - 今後の観光施策について
- コロナ禍における喫緊課題への対応について
 - 新型コロナワクチン接種に係る県の取組について
 - 自宅療養者の療養サポートについて
 - 新型コロナウイルス感染症の拡大と長期化により売上減少に直面している事業者への支援について
 - 東京2020大会に向けた県の取組について
 - 海水浴場等における感染防止対策及び安全対策について
- 誰もが輝く社会の推進について
 - 「かながわ人権施策推進指針」の改定について
 - 「かながわ高齢者保健福祉計画」改定に伴うケアラー対策の推進について
 - 県立特別支援学校の整備について
 - 視覚障害者の安全確保に向けた信号機の整備について
- 県政の諸課題について
 - 特別自治市について
 - 防災基本計画の見直しに伴う本県の災害対策について
 - 本県における流域治水の推進について
 - 県立子ども医療センターでのレジオネラ症対策について
 - 新型コロナウイルス禍における自殺対策について
 - ICTを活用した学びの充実について



あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株)/㈱メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成31年4月 県議会議員3期目当選
- 産業労働常任委員会委員
- 安全安心特別委員会委員
- 自民党県議団政務調査会筆頭副会長
- かながわ自民党女性議員局長

